

# 新発田市租税教育推進協議会長賞

見えない誰かのために今日も

新発田市立 七葉中学校 三年 黒田 煌河 さん

税金と聞いて良く思う人は恐らくいないと思う。なぜなら給料から引かれたり、商品に上乘せされたりと自ら喜んで税金を払う人はいないはずです。私もなぜ税金なんか払わないといけないのか、何のために使われているのかと思っていました。ではなぜ国民は税金を払うのか。

ある日、交通事故の現場に警察や消防の人たちが集まっていた。通報をしたら当たり前にくる。二十四時間いつでも対応してくれる。この当たり前を支えているのは誰なのか、パトカーや消防車はどこから来たお金で買われているのか、私は疑問に思っていました。その答えは私たち国民一人一人が払っている税金から来ているという事をその時初めて知った。だから税金を払わなければ事故現場は放置されるし火災現場は全焼して終わる。助けられる命も助けられない。これだけではありません。私たちがいつも当たり前に使っている近所の公園、図書館や公民館これらは全て税金によって作られています。もしこれらの公共施設がなければ私たちの生活は、今よりもっと不便で退屈だと私は考えます。さらに税金の使い方は様々で例えば新潟県では、豪雪地帯が多く、新潟県が管理する道路の除雪に使われる税金は、令和六年度当初予算で約百十三億円にものぼるといふ。このように地域の気候や地形、特色に合わせた税金の使い方があることを初めて知りました。これだけ私たちの生活がより便利に、より安全に暮らせているのだから、日本国民の三大義務の一つに納税があるのも私は納得だと思いました。

現在、日本では少子高齢社会が進み高齢者が増え年少者が減っています。これによりある問題が起きます。それは若い世代の一人一人の負担が増えるということです。高齢者の増加に伴い年金や医療、介護などの社会保障費が増加します。しかしその費用を負担している働き手が減っていくと、一人あたりの負担が増えてしまいます。これが今後の日本の課題になっていくと思います。税の話題となるとどうしても負担について強調されます。しかし税による恩恵は私たちを含め大人から子供まで誰もが受けている。だから、私たちは「目に見えない誰かのために」税金を払っているのです。少子化による税負担の課題は簡単に解決できることではないと思いますが、今の若い世代が少しでも税金に対して興味を持つことが課題解決の第一歩になると私は考えます。